

2012年07月12日(木)

MEDIFAXweb

## 運転免許更新時の視野検査、強化を 日本眼科医会、民主に要望

2012年7月11日 18:57



要望書を手渡す高野会長（中央）＝11日、国会

日本眼科医会は運転免許更新時の視野検査の強化などを盛り込んだ要望書をまとめ、11日、民主党に提出した。

運転免許証を更新する際の目の検査は現在、普通免許の場合は▽両目で0.7以上▽片目がそれぞれ0.3以上一の両方を満たせば、視野検査まで行わない。同会は、昨年3月に軽トラックを運転中に歩行者をはねて死亡させた男性が事故後に視野が狭くなる難病「網膜色素変性症」だったことが明らかになった事例を挙げ、視野障害によって運転に支障が出る恐れのある人は多いと指摘。対応策として、まずは70歳以上の人が免許更新を行う際に、高齢者講習に併せて視野検査を実施し、詳細な検査が必要であると判断された場合は眼科医療機関で診察する制度の構築を求めた。同会は将来的に検査対象を70歳未満にも広げたい考え。

同日、高野繁会長らが国会内で笠浩史、山崎摩耶両衆院議員に来年度予算編成に

関する要望書を手渡し、「交通事故防止に向け、制度の確立をお願いしたい」と述べた。笠氏は「党としても問題意識を持っていきたい」と応じた。

同会はこのほか、高齢化に伴う視覚障害者数の増加に歯止めをかけるため、成人を対象にした公的な健診プログラムを創設することも要望に盛り込んだ。